

平成 28 年度 新潟農業・バイオ専門学校 学校関係者評価委員会 実施報告

新潟農業・バイオ専門学校 教務部

日時 平成 28 年 12 月 17 日 (土) 18:00-19:00

場所 ホテルイタリア軒 5 階会議室 フィレンツェ

学校関係者評価委員会 出席者

森岡 三男 弁天橋自治会 会長 (近隣住民)
後藤 孝之 株式会社 日本フードリンク 代表取締役社長 (関連企業)
渡辺 弘友 新潟県立植物園 副参事 (関連団体)
岡村 遥香 株式会社 フレッシュはな正 (卒業生)
西村 賢太 株式会社 新潟ケンベイ (卒業生)
伊藤 芳彦 在学生保護者
業務都合により欠席
米野 輝太 新潟ビール醸造株式会社 (卒業生)

新潟農業・バイオ専門学校 (参加者)

学校長 新美 芳二、副校長/教務部長/就職部長 秋山 正之、事務局長 多賀 祥治
農業経営科主任 斉藤 順、農業経営科講師 渡辺 大輔
バイオテクノロジー科主任 岡野 康弘、バイオテクノロジー科講師/放送大学統括 峯岸 希一
バイオテクノロジー科講師 渡邊 望美
園芸デザイン科主任 北澤 道子、園芸デザイン科講師 増田 和人、事務局員 坂井容子

■委員会内容

- ① 平成 27 年度 学校運営・教務実績報告/平成 28 年度前期教務・学校運営実績報告
- ② 平成 27 年度 内部評価委員会 評価報告
- ③ 平成 27 年度 学校関係者評価委員会への事前アンケートの記載内容に関する報告
- ④ 報告を受けての意見交換

■学校関係者評価委員会委員からの意見 (「→」は当校よりの回答)

・学校理念・目標：学校理念、目的、育成人材像については具体的な形でオープンキャンパス、保護者会にて伝わっていると感じる。開校 6 年目となり、地域に根差した学校になりつつある。

→食、農、緑、各分野において地域連携による教育成果が年々拡充している。人材育成の柱として学生に「校訓」とその意味をしっかりと伝え、実践できるよう教育活動を行っている。

・学校運営：学生の相談窓口として開設された「オフィス・アワー」は有効に活用されているか
→相談学生が来訪する頻度は 10 日に 1~2 回。学生からの来訪だけでなく、悩みや相談を受けた教員がオフィス・アワー担当時に訪問するよう指示し、同時間帯にてゆっくり話すなど有効活用している。

・検定試験合格率の低迷について、学力の底上げに向けた対応を行っているか。
→合格率の低下が兼ねてから問題であった農業経営科は、今年度より時期によって時間割を弾力的に変動させている。これにより検定試験前は過去問題を使った答案練習会や対策講義を集中的に実施。11 月に行われた全経簿記能力検定 3 級試験では合格率 86.0% (昨年合格率 53.8%) と大幅に改善された。

・教育環境：教室、実習設備、実習場といった教育環境の整備は改善されている。実習地の確保も十分であると考える。

・社会貢献・地域貢献：新潟市、新潟県、近隣小学校、地域の NPO 法人などとの連携が図られている。ABiO 祭の実施など、近隣住民との交流を積極的に努めている点は評価できる。新潟の地域活性のために若者の教育に努めてほしい。今後の学校の発展を期待したい。

以上